

光の神殿回復 (I コリント 3:16)

いま、世の中は暗闇に覆われているところであり、そこに神様は休むことなく約束通りに救いの働きをしておられます。私たちは 2025 年、新しい年を始めるにあたって、歴史を通してそのような事実を確認しなければいけないと思います。創世記 3 章以来、時代ごと暗闇が国々を掌握してわざわいをもたらしていました。大国は大国なりに、途上国は途上国なりに、サタンはあらゆる方法で国々を暗闇の勢力で掌握して、結果、わざわいをもたらすことをしていました。神様はそこに必ず光の戦士を起こして、その暗闇の勢力を砕いてわざわいを止める働きをなさいました。

それが歴史なのです。そして、そこに 3 つの庭のある教会を建てていらっしゃいました。そのことを聖書の歴史を通して、また世界史の歴史を見ながらも、クリスチャンの私たちは確認していなければいけません。歴史を見る目をクリスチャンとして福音を中心にしっかりと見るようにしましょう。そのように 3 つの庭のある教会、いわば光の神殿を回復することによって、237、5000 未伝道種族に同じことをなさろうとしていらっしゃいます。いままで歴史の中でそれをずっと神様が成していらっしゃいました。それが間違いなければ、2025 年をスタートするこの時も、これから、神様は 237、5000 未伝道種族の中に同じことをなさるんだということを契約として握らなければなりません。それが歴史なので、それを契約として握った信者を残された者と言います。その残された者の祈りが 24 になることで、神様が歴史を通してずっと成していらっしゃいました 3 つの庭のある教会が建つ、そのみことばの成就を見るようになります。

もう一度言います。神様は歴史の中で暗闇の勢力を砕いて救いの働きをなさり、その結果、3 つの庭のある教会を建て、その祝福がずっと続くように働いていらっしゃいました。ならば、これから神様は同じことをなさいます。これからの歴史の中で、237、5000 未伝道種族の中で同じく暗闇に掌握されているその世界に光の戦士を起こし、救いの働きをなさり、暗闇の勢力砕いて、結果、3 つの庭のある教会を建てていらっしゃいます。それが約束なのです。それを契約として握りましょう。神様は私たち教会を通して、信者を通してそのことをなさうとしていらっしゃいます。そのように信じる人を残された者と言います。だから、残された者の祈りは違います。何を食べるか、飲むかの祈りではありません。自分の願いを叶えるための祈りなどはしません。自分の都合が良くなることのために、それを課題にして祈るような祈りはしません。いまこの時代に求められる祈りは、残された者の祈りなのです。だから、残された者の祈りというものは、自分は暗闇を照らす光を持つ者なんだ、言葉を変えますと、唯一の答えである、わざわいを止めることができる、福音を与えられている者なんだ、尊い特別な存在なんだ、ということ意識して、そのアイデンティティを明確にする祈りをします。そうすると、残された者は、残れる者の祈りをするようになります。残れる者は、だからこそ何があっても絶対生き残れるんだと。何があってもそれに振り回されたり、負けたり、つまずいたりすることなく生き残れるようになります。なぜでしょうか。契約が明確なので、光を持っている者なので、どんなことがあっても揺れることなく、倒れることなく生き残れるように祈ります。生き残れることを信じて祈ります。その結果、残された者の祈りは残る者の祈りに変わります。残る者の祈りとは、生き残るために生き残ったわけではありません。神様の目的である、歴史を動かしていらっしゃる神様のテーマである福音宣教にフォーカスを合わせて、自分の人生、身を捧げて献身する祈りをします。それが残る者なのです。歴史のテーマである暗闇に光を照らす福音宣教の働きに用いられることをテーマにして、それだけを祈ることになります。そういう人が残る者なのです。福音宣教のために用いられるように残るわけです。生き残った人の中でも、福音宣教とは無縁な信仰生活をする人が多いです。しかし残る者は、自分が福音宣教のために残るんだ、残ったんだとそれを祈ります。そこに何を食べるか飲むかの祈りは入る余地などありません。それで最終的には残す者の祈りを捧げることになります。いつかは人生終わります。しかし、世界福音化の神様のその契約はずっと続くわけです。それがその人の内側にやぐらとなっているので、自分が死んでも、去ってもこれが継続できるようにシステムを残そうと祈るようになるはずなのです。だから、フォーカスは次世代のレムナントの方に、システムの方に行くようになります。これが残された者の祈りです。まとめて縮めて申し上げますと、福音宣教のために祈ることになります。自分がそのために残されているということに気づいて、それに驚いて感謝

しながら、自分が生きる理由はそこにあったんだねと、これを 24 祈るようになります。24、このテーマ以外にはテーマがありません。それをなぜ強調するのかと言いますと、私たちにはそれ以前に肉によって慣れている部分がありにも固まって残ってるので、それがこれを邪魔して 24 になれないようにぶつかるので、戦いながら祈るだけであって、しかし残された者の祈り、フォーカスは一つしかありません。光なのです。24 ずっとそのことを祈るわけです。そこまでが残された者がやるべきミッションです。そうすると 25 が見えてくるようになり永遠の作品を残す、その答えの祝福に預かるようになります。その答えの結果、その人の内側に、教会に、3 つの庭が設けられることになります。3 つの庭は何でしょうか。異邦人の庭、多民族、未信者の庭、癒しの庭、病んでいる者が助かるための癒しの庭、子どもの庭、次世代、継続するための庭。つまり、神様の願いそのものがその人の内側に、教会に建つようになるということです。後で申し上げますが、この庭というものは場所だけのことではありません。まずは人なのです。なぜ神殿の回復と言わないで光の神殿とおっしゃったのでしょうか。それは暗闇を大前提にしたという表現なのです。この世界が暗闇に掌握されて囚われているからこそ光が必要なのです。その光はイエス・キリストです。だから、クリスチャンひとりひとり、また、そのクリスチャンが集まっている教会そのものが神殿ですが、ただの神殿ではなくて光の神殿、つまり、暗闇の世界にいのちのイエスの光を照らすための神殿なのです。それでなければ、それは正しい意味の神殿にはなりません。異邦人に向かって光を照らし、病んでいる者に向かって光を照らし、次世代、子どもたちに向かって光を照らすことがなければ、いくらたくさん集まってハレルヤと賛美をしても、神様がごらんになったときには望ましい教会とは言えないわけです。教会は集まることに意義があるわけではありません。集まらなくてもいいのか、でもありません。終末の時代に集まることを嫌だという動きになるから気をつけなさいと言われました。いまは終末の時代なのです。だから「ネットがあるのにもういいじゃん。やることいっぱいあるんだから。オンラインで献金さえすればいいんじゃないの」... などの傾向がこれからだんだん濃くなっていく時代を迎えることになります。しかし、集まらなければなりません。集まって対面で聖霊の働きを見て、御座の祝福に預かるようにならないといけません。個人の礼拝もそうだし、集まって礼拝をするときに御座の光が照らされる御座のキャンプの祝福が現れることを信じて礼拝に集わなければなりません。しかし、集まることが目的ではありません。そうすると光の神殿にはなりません。光の神殿という言葉の意味は、暗闇に光を照らすという意味があって光の神殿なのです。現場とこの世界と 237、5000 未伝道種族に向かって光を照らす異邦人の庭、癒しの庭、子どもの庭を持っていないと教会として成り立たなくなります。それが 2025 年、私たちに神様が与えようとしていらっしゃる祝福の契約なのです。無理やり祈るのではなくて、みことばの契約を必ず成就することを信じて、その祝福の約束として受けとめましょう。このような残された者の祈りによって 3 つの庭が成り立つというみことばの成就を見るようになりますが、これこそがみことばなのです。光の神殿を回復するために、このみことばのやぐらがどこにどのように建つべきなのかということをしかりと教えられて、その通りに祈っていきたいと思います。

1. 私の中に建つように祈る。

このみことばのやぐら、光のやぐらが、まず信者、私の中に建つように祈っていきましょう。

どのようにして自分の内側に光のやぐらが建つように祈るのか、何を祈ればいいのか、それも詳細に教えられました。

1) 7 やぐらが働く約束を信じて

それは御座の 7 つのやぐらというものが信者の私の内側に働くようになる、という約束をまず信じて祈らないといけません。だから、その御座の 7 つのやぐら、もうキリストを信じて神の神殿になった信者なので、その確信の上に立って当たり前御座の祝福が自分のものなのです。それが神殿の神の子どもの祝福、特権なのです。それが具体的に私の内側に現れて働く、それで光のやぐらになるんだと約束していらっしゃるから、それを信じてその通りになることを祈ればいいのです。7 つのやぐらがどのように働くように祈ればいいのでしょうか。7 つのやぐら、いっぱい聞きました。ただ暗記することもちろん必要なことです。いっぱい暗記すれば、自然にいつでもどこでも思い浮かべられます。この間、ミュージカルのために歌詞をずっと覚えていたら、終わったのに目覚めるとその歌詞が行き来するわけです。そういう意味で暗唱する必要はあると思うのです。しかし、7 つのやぐらは約束なので、本当に信じて祈ってください

い。しかも霊的な祝福なので目に見えるものではありません。2 講義目にそういう話が出ますが、目に見える結果というものは後のことで、先に目に見えない霊的な動きがあるということを知らないと言者は負けます。また慌ててしまうのです。私たちの戦いは血肉の戦いではなくて、目に見えない戦いなのです。その結果が目に見えるように現れるだけです。それを知らないと言者というものは成り立たないのではないのでしょうか。だから、いつも問題があれば祈り、何を食べるか飲むかのために祈り、子どものために、仕事のために、いつもそういう祈りしかないのです。それではやぐらは建ちません。2025 年、光の神殿の回復の契約を握って、まず自分の内側に 7 つのやぐらが建つ、それが働くと言者を信じてください。

7 つのやぐらはたくさん聞いたので短く申し上げます。今日、時間が長くなるかもしれませんが。柳先生はいつもおっしゃっているので短く飛ばしました。わかっているというふうに思っ。でも、ひとつひとつ皆さんに申し上げます。自分の中に三位一体の神様が私の中に働いてください。みことばをもって、救いの働きをもって、力をもって働いてください。そのように祈る、それが約束されているから祈ってください。そのやぐらが建たないと、現実において私たちは負けてしまうし未信者と同じ人生を生きるしかありません。そして、御座の栄光と時間空間を超越する力、237 を照らす光が私に臨まれまして働くように。なんと素晴らしいのでしょうか。このような幸せがどこにあるのでしょうか。その結果、体の健康以前に、いのちである神のかたちが生かされて、自分の考えとたましいに神の息が吹き込まれて、自分の生活にエデンの祝福が回復できるようにしてください。それが約束されています。その通りに祈ってください。そして、そのために空前絶後の祝福が私と教会と私の業の方に現れるように。なぜでしょうか。この福音宣教、光を照らすためです。そして、地の果てにまで証人にしてくださると言約束の聖霊に満たされた結果、霊力、知力、体力、経済力、人材の力が、つまり世界福音化のための神から与えられる力を得ることができるように。それは約束なので。それなしで勝利の人生は期待できません。でも、どんなに惨めな人間、どんなに険しい環境に置かれていても、このやぐらが建つようになればその人はお構いなし、勝利できるようになります。そして、CVDIP が明確になって、それが発見できて、契約の旅を歩むことができるように。人それぞれ違うかもしれませんが。契約を握る言。今朝、柳先生が地域礼拝のテキストをもっておっしゃった時にも、そういうことをおっしゃいました。大切な言契約なんだと。本当に貧乏な家庭で生まれた。しかし貧乏な家庭に囚われないで、そこで契約を見つけないといけません。私たちは日本に生まれました。偶像の国、ヒューマニズムの国なのです。だから、わがわいの国になります。宣教師の墓と言われる伝道において絶望的な国になっています。そこで日本はこんなもんだと思う言契約を忘れることなのです。そこで契約を握るわけです。本当にキリストでないと希望がない言。それで神様はこの日本の地において絶対不可能な初代教会になさった言と全く同じように、聖書的な伝道運動、復活のイエス・キリストがそれを 47 都道府県、日本の地になされて、行われて、日本が宣教師の墓ではなくて、5000 種族に宣教する宣教の地になる言働かれるビジョンを見ないといけません。それが間違ひなければ、いまは小さな群れですが、私たちの教会は、私はそのことに仕える言の証人になる夢、証人の教会、聖書的な伝道運動のモデルの教会になる、成り立つ伝道、生まれる弟子を見せる言ことができる証人の教会になる言を夢として握っていないといけません。そのために神様は神の答えをもってこれを全うしていらっしゃるわけですから。あらかじめ神様が神の力によってなさること、神のかたちである私を通してなさる言をあらかじめ見て祈るわけです。韓国でタラップンの運動が始まって、20 の伝道戦略がシステムとして立って、それが今はうやむやに形がなくなりました。日本の地において正しい聖書的タラップンの伝道運動が行われる言によって、20 の戦略が作品として、システムとしてしっかり建つように。それが私が握ってる CVDIP です。とにかく、このレムナント教会に属してる皆さんは、この教会の契約の流れに乗って CVDIP を握る言。つまり、神様が臨まれる契約の上に立つ言ということです。それが光のやぐら言。その結果、このような答えに預かります。異邦人の庭、癒しの庭、子どもの庭が設けられます。神様はいま成そうとしていらっしゃる神の願い、歴史が動いている理由はこの 3 つの庭にあります。この 3 つの庭を通して光を照らすわけです。そのような神のやぐらが、光のやぐらが私の内側にまず建つ言。光のやぐらが建ちますと、結果、必ず 3 つの庭が設けられる言になります。それが光の神殿です。それを祈ることによって、光の神殿の契約、光の神殿回復の契約の成就を見る言になるでしょう。

2) この力で御座の旅を歩み

このやぐらを祈ることで、上からの力に預かるようになります。その力をもって神様が導かれる旅程を歩む、それを祈るわけです。あらかじめ祈りによって自分はこういう道を歩んでいきます、こういう道を歩むようにしてくださいとわかって祈るわけです。このようなやぐらが建って神の願いを全うしていくために、神様は三位一体の神様が私を契約の旅程として導かれるわけです。その三位一体の神様が導かれる契約の旅程を歩むようにしてください。そして、10の信仰の土台というものは、結局、伝道の結論をしっかりと出して、揺れない土台の上に立って伝道者の旅程を歩むように。伝道者の旅程、伝道者として歩むことがもう結論として出ているわけです。それを出さないといけません。私たちの旅程は伝道者の旅程なのです。その伝道者として結論を出したので、しかも信仰の土台の上に立って出された結論なので、それは動くことはありません。伝道者の旅程を歩む理由は、神様の絶対計画があるから、それに向かって歩むわけです。神の絶対計画は絶対弟子にあります。その絶対計画に向かって私の歩みのすべてが答えになる、だから、つまずくことも争うこともいらない、全部が答えになる秘密の旅程を歩むようにしてください。これが伝道者の旅程です。私たちがこれから歩む道はそのような道なのです。この絶対計画があるから、絶対だから、何がどうであれ全部これに益となります。そういう道をこれから歩んでいきます。確認して歩むようにしてください。だから、この絶対計画のゆえに私がぶつかるさまざまな現実の中で、その現実には騙されることなく、必ずそれに打ち勝つ確信を持つ旅程を歩むようにしてください。そして、どのような現場でも、現場にのまれることなく、現場に巻き込まれることなく、現場を生かすために、現場の流れをしっかりと見て、流れを変えることができる旅程を歩むようにしてください。ほとんどの人がクリスチャンなのに現実や、また自分がいま遣われている現場において負けてしまうのです。三位一体の神様が導いていらっしゃるから巻き込まれる理由などはありません。もっと分かりやすく申し上げますと、何一つ悪いことなどはない、そういう旅程を歩むわけです。なぜなら神の絶対計画のゆえに、またそれに向かって歩むわけですから。そのように歩んでいきますと、必ず神の絶対計画が全うされて弟子が起こされます。そのときに生涯の答えを自分が持って、生涯の答えを伝える伝道者の生活の旅程を歩むように。そのことのために神様が礼拝を通して導き、祝福を与えられるので、礼拝が御座のキャンプになる、御座の光が照らされる礼拝の旅程を歩むように。これを祈るわけです。たぶん今日この1番で終わるような気がします。時間の問題ではないと思います。2番、3番はまた来週やればいいわけですから。来週は本当は元旦の2講義目を用意しておりますが、聖霊の導きがこうであれば、今の私たちには本当にこれを真剣に祈らないといけません。また、平安のうちに感謝とともに祈らないといけません。

3) あらゆるところに御座の道しるべが建つように祈る。

そうすると、その旅程を歩む、これが現実なのです。現場なのです。その答えをもってあらゆるところに御座の光の道しるべが建つように祈るわけです。この答えがどんどん拡散されていく。どこまででしょうか。237、5000 未伝道種族にまで行くための道しるべがあるわけです。それをあらかじめ見て、そこに道しるべがしっかりと建つように。そのためにカルバリ山の完了したという契約を握って、オリーブ山で神の国のミッションを握って祈り、自分の現場、マルコのタラップンという現場においてそのことが具体的に現れた、つまり神の国のことが現れたという体験をもってアンテオケ教会にこの道しるべを建てて、アジアに、ヨーロッパに、ローマにまでこれを建てていく。そこに絶対弟子を見つけて、絶対やぐらを建てていくことなのです。これが道しるべです。道しるべの一番のキーワードは絶対弟子なのです。その道しるべを先にわかって。なぜローマにまででしょうか。237 に入って、5000 未伝道種族に入ってこのような道しるべを建てるためです。「えーそれは私とはあまり... 遠いような気がしますよ」と思う人は、自分自身のことがわかっていないから。言葉を変えると、キリストがまだ分かっていないからです。キリストは光であり、万軍の主です。その方が私とともにおられます。だから私は神の神殿になりました。問題はその神殿が光り輝かない、光が見えないのです。光の神殿。自分の問題にいつまでもずっと縛られて、自分のやりたいことばかりで、自分、自分、自分しかできない。教会も、うちの教会、教会、教会だけで、光を照らすことがなければ神殿の意味は消えてなくなります。だから、2025 年、改めて、神殿ではなくて光の神殿の回復の契約を握って、皆さんの内側に 3 つの庭が設けられて、皆さんを通して異邦人に、未信者に光が照らされる神の働きが、病んでる者にイエスの光が照らされる神の働きが、次世代、子どもたちにそれが照らされる神の働きが。このようにまず、光のやぐら、みことばのやぐらが信者の私の中に建つように祈ることによって、光の神殿として回復できるようになります。私たちはすでに神の神殿になりました。光の神殿としてひとりひとりの信者が回復できるその契約を握って、その契約の成就を見ていくよう

になりますように。

2. 教会の中に建つように祈る。

そして、この光のやぐら、みことばの契約のやぐらが教会の中に建つように。皆さんの内側に光のやぐら、光の神殿を回復するやぐらが建つようになれば、当たり前になることなのですが、教会の中にこのやぐらが建つように祈っていきましょう。それで光の神殿として教会が回復するようになります。

もう一度言います。教会は集まるためにあるものではありません。もちろん慰めがあり、励ましがあります。しかし、皆さんが願っているその願い、その切ない何かの願望、それをどうにか叶えてあげるために教会があるわけではありません。それはこの暗闇の世界に何にも役に立たないので。光に満たされて、暗闇の現場において灯台として、やぐらとして光を照らしていくために教会が存在します。

1) 多民族(未信者)、2) 癒し、3) RT

教会がそのような教会になるように、つまり教会が多民族に向かってイエスの光を放つことができる教会、病んでいる者に対してイエスの光を照らすことができる教会、レムナントに向かってこの福音のイエスのいのちの光を照らすことができるように。伝えることと同じでしょうけれども、光を照らすということは意味が違います。暗闇が大前提なのです。そのために、先ほども申し上げましたように、建物や場所の問題以前に人なのです。皆さんの今までの人生経験、さまざまなことを土台にして祈ってください。牧師もそういうふう任命するかもしれません。異邦人の庭を祈る人、癒しの庭を祈る人、子どもの庭を祈る人、それをサポートしていくレムナントとして、異邦人の庭と一緒に祈るレムナント、癒しの庭と一緒に祈るレムナント、それから、子どもの庭と一緒に祈るレムナント。私の目には全部備えられていると見えます。神様が皆さんにメッセージを通して声をかけてくださることを祈ります。それから、牧師がたぶん声をかけるでしょう。それを備えて祈っていくわけです。いつでも未信者がつながったときに、未信者が、多民族がいつでも教会に来られるように。病んでる人がいつでも教会に来られるように。レムナントたちがこの主人公としての意識をしっかりと持つことができるように。この契約を握って私がその庭の担当者になるんだと祈ると、神様は証拠を与えられるでしょう。証人でなければ建てないわけですから。それでこそ教会が光の神殿として回復できるようになります。

3. 現場に建つように祈る。(パウロ)

- 1) 使徒 13、16、19-異邦人
- 2) 使徒 13、16、19-癒し
- 3) 使徒 17、18、19-会堂
- 4) ローマに向かい

そして最後に、皆さんがいらっしゃる現場が、パウロが働いていたようにそこで異邦人に福音を伝えること、病んでいる者が癒されること、そして子どもに向かって会堂に入ったという働きを通して、現場で多民族や未信者が救われる働き、癒しの働き、子どもたちが立つ働き、そのようなことを現場のタラップン、そしてタラップンから地教会というシステムとして言うわけです。

ただそのようにタラップンをやっているだけではなくて光の神殿になるように。皆さんの現場が光の神殿になるように。皆さんの現場において未信者が救われる働きがなされて、病んでいる者が癒される働きが起こされ、レムナントが備えられるようなことがありますように信じて祈りましょう。

なぜそうならないのか。自分の中にこの光のやぐらがまずしっかり建っていないので。なぜ建っていないのか。後々お話ししますが、サタンのやぐらがあまりにも頑丈に建っているから、そこが砕かれるように祈りつつ、しかし完璧な人間になるわけではなくて、この約束を信じて本当に自分が光の神殿、教会が光の神殿、自分の現場が光の神殿に変えられるようにと祈っていくことが大切なのです。

結論を言いましょう。来週にこれが持ち越さなくてよかったです。信者、個人、教会、現場に光の神殿が回復されると大国に想像を超える神のわざが現れたという歴史をしっかりと見てください。紅海が分かれたり、10のわざわいによってエジプトが砕かれたり、そういう人間の想像をはるかに超えたわざが現れる

ようになりました。そのことで暗闇のやぐらが砕かれて、世界を変える福音化がなされていました。これからもそうなります。というのは、光を持つ皆さんの、この光の神殿回復の契約を握って祈る小さな祈りと献身は世界を変えるものだということを信じて祈りましょう。改めて、あけまして、そういう意味でおめでとうございます。

(祈り)

恵み深い父なる神様。2025 年、最初の聖日礼拝を必ず成就される契約を確認しながらスタートすることができてありがとうございます。どうか自分自身を振り返りながら、本当にどのように祈っているのか、何を願って目指しているのかを吟味しながら、祈りを改めて契約を祈ることができるように。まず、目に見えない霊的な勝利のために祈ることができるようにひとりひとりの内側に主が聖霊を通して働いてください。光の神殿回復の契約、それを握って 24 時祈ることができるようにひとりひとりを祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。